

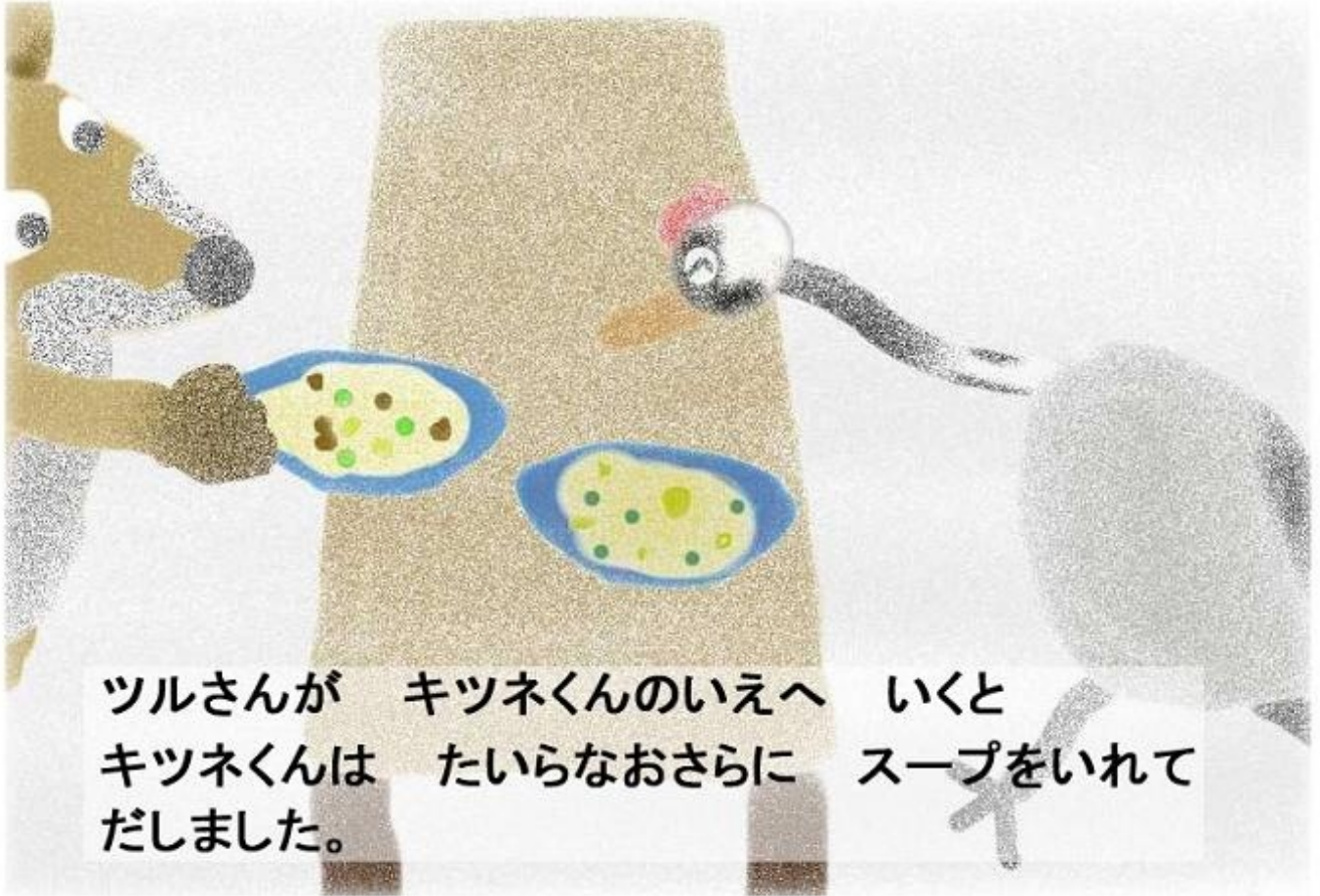




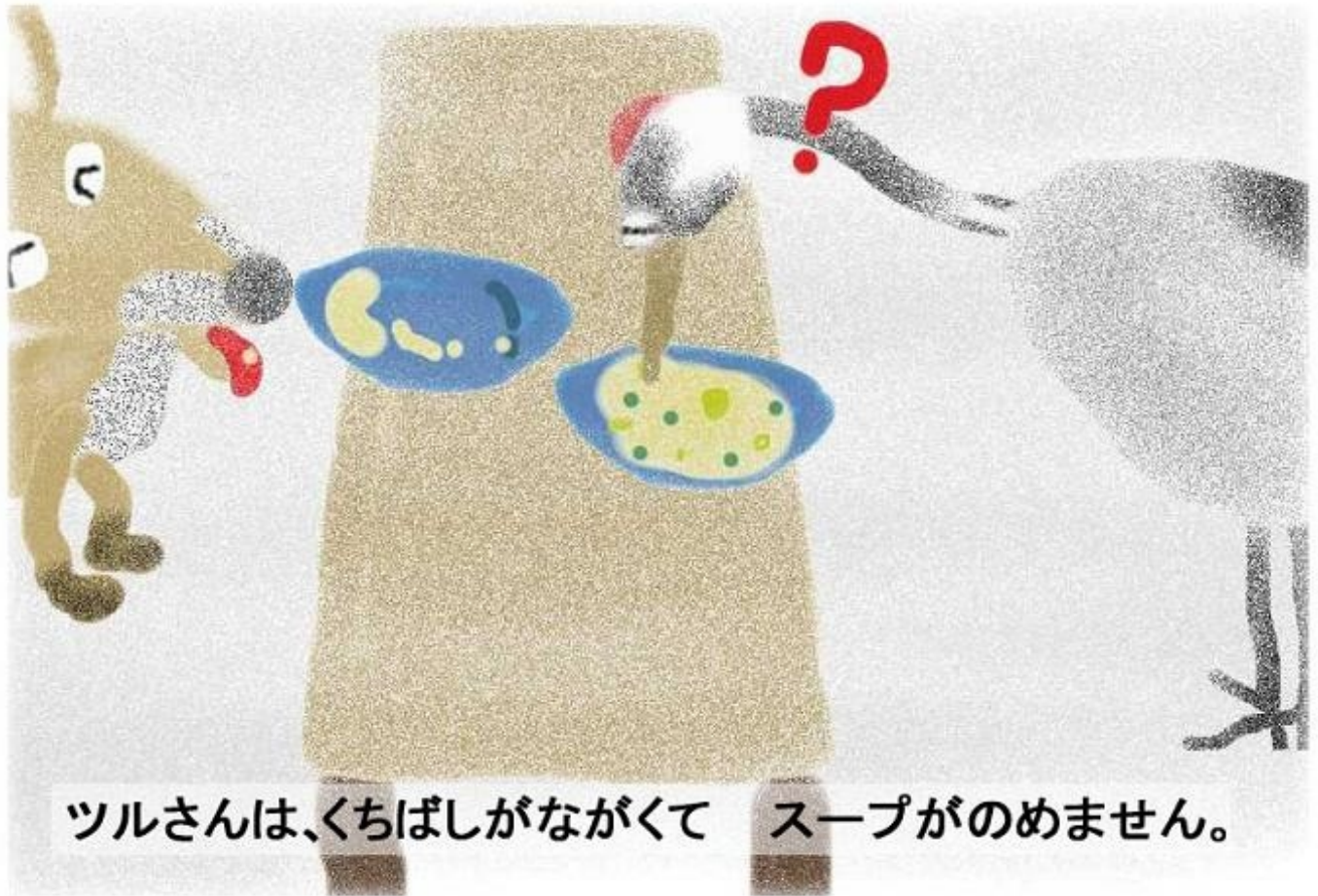
あるところに いたずらずきの キツネくんが いました。



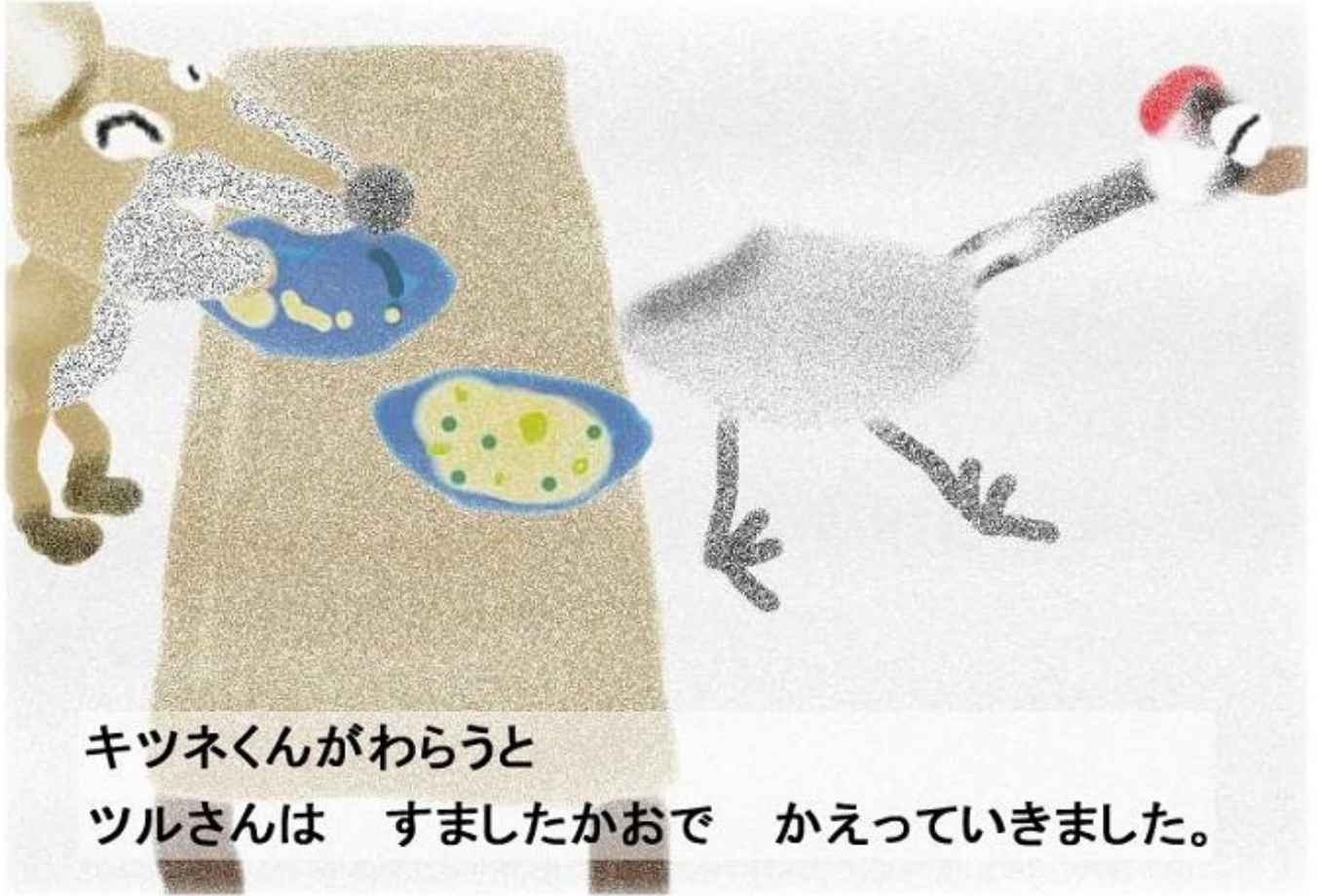
みちで ツルさんにあつたので、  
「こんや うちへおいでよ。ごちそうするよ。」



ツルさんが キツネくんのいえへ いくと  
キツネくんは たいらなおさらに スープをいれて  
だしました。



ツルさんは、くちばしながくて スープがのめません。



キツネくんがわらうと

ツルさんは すましたかおで かえっていきました。



つぎのひ、ツルさんは キツネくんを しよくじに  
さそいました。



キツネくんが ツルさんの いえに いくと、  
ツルさんは くちのほそいびんに ごちそうをいれて  
だしました。





ツルさんは ほそながいくちばしでじょうずに  
たべましたが、キツネくんは くちにはいらず、  
たべることができません。



ツルさんは、それを見て  
「それぞれに とくいなことと そうでないことがあるの。  
できないことで いじめると、じぶんが  
おなじめにあうのよ。」



キツネくんは ツルさんに あやまり  
そのひから ふたりは なかよしに なりました。

キツネとツル

原作／イソップ寓話

絵／takemaro1

文／KW

<http://p.booklog.jp/book/38085>

著者 : takemaro1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/takemaro1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38085>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38085>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.